

課題・問題意識(提案の背景)

本来子どもの遊び場となる公園や学校等に仮設住宅が設置されるなど、子どもの遊び場が圧倒的に不足。またスクールバスでの登下校を強いられる児童が多く歩行する頻度も極度に減少。生きる力を育むための土台となる体力が著しく低下し、同時にこれに大きく影響される基本的な生活習慣が乱れる可能性が高い。基本的な生活習慣の乱れは、心身の発達にも大きく影響することから、遊びなど、様々な体験をする場の環境整備と同時に早寝早起き朝ごはんなど望ましい生活習慣の重要性を認識してもらう必要がある。

事業の全体構想・目指す目標像

平成25年度「新しい東北」先導モデル事業

実施スケジュール

○取組む内容のねらい・実施主体間の連携等

子どもを取り巻く環境そのものを変える必要があり、行政の復興まちづくりと連携してハード面・ソフト面から子どもの育成環境を整備するため、当該プロジェクトでは、
 ① 子どもの育成時間の健全化を図ることが、子どもの心身の発達に大きく影響することをデータを用いて住民に認識
 ② 子どもの様々な体験機能がさらに子どもの資質・向上させることから、多様な体験をさせるための環境を整備するために女川町と連携
 ③ 上記①②の環境整備とともに、実際に体力向上と同時に生きる力を育むため、行政と連携して、放課後に遊びを通して様々な体験をさせるための取組を実施

H25年10月、
12月、3月

全体検討会議開催

※ 会議が開催されるまでの期間は、随時関係機関との調整

H25年11月末
～
H26年3月

取組②「子どもの遊び場づくり」
集団遊び等を実施

H25年2月
～
H25年3月

取組①「子どもの育成時間の健全化と育成コミュニティの再構築のためのPR活動」

H25年3月

評価と次年度の活動等の検討

H26年～

実施エリアの拡大、内容等の検討と

○主な取組

取組① 「子どもの育成時間の健全化と育成コミュニティの再構築のための構想作成とPR活動」 専門家チーム、宮城教育大学

①取組内容

- ・ 子どもの育成時間の健全化を図るための仕掛けづくり(早寝早起き朝ごはん等の啓発)を行政に提案し、行政とともに啓発を実施
- ・ 子ども向けの多様な体験機能を社会の中心に据えるためのコンセプト・手法を行政に提案
- ・ 先導モデルとしてのPRを実施

②見込まれる効果等

- ・ 体力の向上。併せて、長期的には生きる力が向上ことから学力も向上



川島隆太氏、陰山英男氏等による専門家チームにおいて構想作成とPRを実施

取組② 「子どもの遊び場づくり」

実践チーム、宮城教育大学

①取組内容

- ・ プレイリーダーとともに、高齢者も含めた地域住民に子どもの集団遊び方法が根付くよう、指導を行いながら遊びを実施。

②見込まれる効果等

- ・ 体力の向上。併せて、長期的には生きる力が向上ことから学力も向上
- ・ 意欲の向上と疲労感を訴える児童の減少



平成26年度以降の展開

- ・ 早寝早起き朝ごはん等基本的な生活習慣の確立と多様な体験をさせることで、生きる力が向上し、必然的に学力も向上するという教育都市の先行モデルとしての町外へのPRを強化。
 - ・ 「子どもの遊び場づくり」については、高齢者を巻き込んだ取組を強化。
 - ・ 復興まちづくりの進捗を考慮しながら、それに対応したソフト整備。
 - ・ 集団遊びの開催日を週2回以上。
- これらの事業は、民間資金等を活用しながら今後継続。

目指す目標像

- このプロジェクトにより体力及び学力が向上すると考えるため、26年度の本格実施以降の学力と体力の対前年度比のポイントをプラスとする。
- 教育都市であることが理解されることで若い世代の定住が促進されると考えることから人口に占める15歳未満の割合の前年比プラスを目標とする。